

山家悠紀夫『日本経済 30 年史』岩波書店、2019 年

第 1 章 30 年間で日本経済や暮らしはどう変わったか

問題提起

P.22L.3 から正社員の減少、非正社員の激増について書かれており、1998 年以降の給与所得者の 1 人当たりの平均給与の減少の大きな要因として、正社員が減少し、かわって給与水準の低い非正社員の増加があると述べられていた。現在、日本では同一労働同一賃金やパートタイム労働者・有期雇用労働者の待遇改善が行われているため、正社員と非正社員の不合理な待遇差が解消され、非正社員も働きやすい環境になりつつあると考えられる。

こういった現状から正社員である必要性がなくなっているのではないか。また、非正社員が増加することに問題はあるのか。